

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 履修指導を組織的に実施するための「履修指導マニュアル」を学科毎に作成する。	→履修指導マニュアルの作成、およびその改訂状況。	C	B			
2. 成績不振学生の履修指導方法を体系化する。	→履修指導を行った学生（保証人に連絡を行った学生を含む）の比率	C	B			
3. 成績評価基準がシラバスに明記されるよう徹底する。	→シラバスへの成績評価方法記載率。	A	A			
4. 学部独自のFD研修会を実施する。	→開催状況。	A	A			
			☆			

  

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 教育方法に関しては全般に非常に充実しており、これを維持する努力を継続する。学習指導に関しては、特に成績不振学生に対する指導の体系化を進めていく。学部の教育目標にも掲げている通り、実験・演習は重視しており、非常に充実している。1~3年次に配置されたこれらの実験・演習、および4年次の卒業研究・特別演習によって、学生の主体性を育成することにも努めている。実験・演習には学部としても設備、人員等非常に多くの資源を投入しているが、今後もこれを維持する努力を継続したい。履修科目登録の上限は全学年とも年間50単位未満に制限している。また、各学生を担当する教員を定める「担任制度」により、履修指導を充実させている。GPAを基準に成績不振学生の保証人(保護者)に連絡を行うことを2008年度より試行している。2008、2009年度は通算GPAを基準にしていたが、2010年度は当学期GPAを基準にして成績不振の判断を行った。今後、更に効果的にする方式について検討を進める。また、成績不振学生の履修指導を体系的に行うため、カリキュラムWGで各学科で「履修指導マニュアル」を作成することを確認して、作業を進めている。すでに5学科で履修指導マニュアルを作成済みである。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) 2010年度のシラバス入力システムの改修により、成績評価基準を含め、必須事項の記載のないシラバスは受理されなくなった。2008年度の授業評価を見る限り、シラバスと授業内容に著しい不整合は見られない。
小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 全科目の成績の分布を教授会で配布しているが、これから見る限り成績評価は概ね適切に行われている。カリキュラムWG(ワーキンググループ)および学部長室委員会では、成績分布に関する更に詳細な分析を行い、受講者数や成績分布に偏りが見られる科目については、各学科に点検および改善を行うよう求めている。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 理工学部FD(ファカルティディベロップメント)委員会で定期的(毎月1回開催)に学部でのFDの取り組みについて検討するとともに、学部独自のFD講演会を毎年実施している。テーマは、2008年度に全教員を対象に実施した「FD意識調査」の結果に基づき、教員の関心の高いものを選定している。2010年度は11月に「数学リメディアル教育」をテーマにした講演会を実施した。また、2011年度は10月に「物理リメディアル教育」をテーマにした講演会を予定している。
その他	

## 《評価指標データ》

履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)  
 少人数授業の授業形態の調査  
 規模別講義室・演習室使用状況  
 マルチメディア教室の稼働率  
 遠隔授業を活用した授業の比率  
 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】  
 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数  
 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)  
 成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率  
 GPA値(全学、学部別、男女別など)  
 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度  
 オープン授業(授業公開)の全授業における割合  
 学生の授業評価の実施率(全学、学部別)  
 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)  
 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率  
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率  
 大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)  
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合  
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】  
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	2010年度のシラバス入力システムの改修により、必要事項が記載されたシラバスとなっている。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	学部独自のFD講演会を年1回開催し、講演会の内容を受けて教育課程や教育内容・方法の改善をFD委員会で検討している。
その他	

## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	2011年度の授業評価を見て、シラバスと授業内容に著しい不整合がないかをチェックする。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	現在、数学のリメディアル教育を試行しているが、他の教科のリメディアル教育に関する講演会を開催して他の教科のリメディアル教育の取り組みの足がかりとする。
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## 《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### <評価専門委員会の評価>

##### 【学外委員】

○おおむね順調に進展していると判断されます。

##### 【学内委員】

○教育成果について定期的な検証を行うなかで、学生の意見はどのように聴取し反映させているのでしょうか。

○教育方法や学習指導に関しては、様々な取り組みがなされており大いに評価できます。特に、実験・演習科目が充実していたり、成績不振学生に対する対処策などが優れています。シラバスについても、記載における積極的な策が功を奏しており評価できます。成績評価・単位認定、教育成果についての定期的な検証についても適切な取り組みがなされていると思われま。

○目標である履修指導マニュアルの作成や履修指導は着実に進捗しており評価できます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・教育方法、学習指導に関し様々な工夫をされていることが評価できます。

・教育および履修指導については、さまざまな諸施策が検討・実施されており、その点は非常に評価できます。ただ諸施策の中には試行的なものもあり、効果の有無を検証し、より効果が出るよう期待されます。シラバスの記載に関しても、システムの変更により不適切なものは記載できないよう工夫した点は評価できます。FD研修会も定期的に行われており、教員の関心も高い点は評価できます。今後、この内容が具体的な教育内容・方法の改善に結びつくことが期待されます。

##### 【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性

・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み

・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

6.3.4(現状説明)

★ 教育成果の定期的な検証としては、学生による授業に関する調査を行っている。全学的には2005年度から3年に1度実施している。また、全学的な授業に関する調査が行われない年度においても各教員が学生へのアンケートを用意し、その結果に基づいて授業の改善を検討している。